



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2010.9

No. 317

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



カワウの今！ —カワウは河川生態系の破壊者か？—

小荷田行男(さいたま市)

● 県内コロニー(繁殖地)の現状

県内には1990年代から滑川町の武蔵丘陵森林公園山田大沼(小荷田 2004)と上尾市と桶川市の境にある荒沢沼(小荷田 2007)にコロニーがある。近年、山田大沼は季節変動があるが、1,000羽前後が生息し、3月から11月までの長い繁殖期が特色である。荒沢沼は2007年頃からコロニーが不安定になり(小荷田 2007)、近年、営巣はなく、埒(ねぐら)のみ利用されている。荒沢沼コロニー不安定化の要因は、特定外来生物アライグマによる卵やヒナの捕食が疑われている。

● 県内埒の現状

県内には前述のコロニー以外に8ヶ所の埒がある。多い順に東武動物公園(宮代町)、彩湖(戸田市)、清澄ゴルフ倶楽部(東松山市)、宮内庁埼玉鴨場(越谷市)、児玉カントリー倶楽部(深谷市)、三橋鴨川(さいたま市)、宮沢湖周辺(飯能市)、入間ダム(飯能市)(未調査)が知られている(埼玉県自然環境課 2010)。近年、小規模な埒が関東平野全体に分散する傾向があり(関東カワウ広域協議会 2010)、県内にも未発見の埒がある可能性が大きい。

● 首都圏におけるカワウの生態変化

本稿では大規模コロニーが現存する東京、埼玉、千葉北部を首都圏と呼ぶ。

1950年代以降の首都圏におけるカワウの生態を(表)にまとめた。1950年代の安定期から激減期、低個体数期を経て急増期、飽和期へと餌場やコロニーの要求条件を積極的に緩和し、その生態を大きく変化させている。

1950年代、生息していなかった秩父(高田 1950)(清水 1953)で、カワウは荒川上流秩父山系のそれぞれの谷に、そこをテリトリーとする個体が生息し、溪流魚が絶滅の危機に瀕している。

● 関東地方のカワウ個体数

2005年から2009年までのデータが揃っている栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、山梨の各県を合計すると、7月が12,000羽、12月が13,000羽と安定しているが、3月は2006年をピークに減少し2009年は10,000羽となっている(関東カワウ広域協議会 2010)。

安定した個体数が保たれている理由は、餌資源(川魚と沿岸魚)量による制約、繁殖増加分が域外(福島、宮城、山形など)へ流出していると考えられる。

● 県内の生息魚類推移

荒川中流(玉淀ダム～六堰ダム)6ヶ所で、投網による魚類調査を2000年から2002年の春と秋、計6回行った。その結果、一打網当りの採捕数が、春で0.11尾から0.03尾へ、秋が1.18尾から0.38尾と急減した。また、それぞれの魚種の体長、体重の減少が見られる。関越道・花園橋における投網調査では、1995年秋は、コイ、ウグイ、オイカワ、カマツカ、モツゴ、ニゴイ、と6種取れたが、2000年秋では、カマツカのみである。同じく荒川大橋で1995年秋のオイカワ、アブラハヤ、モツゴの3種だったのが、2000年秋にはオイカワのみとなっている。荒川大橋、花園橋のいずれも1995年にくらべ2000年は魚種が激減した(日本野鳥の会 2003)。

利根川を除く県内河川を橋上観察すると、カワウが食べられない大形魚と餌にならない微小魚のみ生息している状況が続いている。

● ニホンジカによる植生破壊とその帰結

カワウと同様に生態が大きく変化している種にニホンジカがある。東京大学秩父演習林のブナ天然林は、ニホンジカにより林床植物や樹木実生が食い尽くされ崖崩れが起きている。現在のニホンジカは森林生態系の破壊者

である。何らかの原因で個体数が激減した種は、その原因が取り除かれたとき、在来種として生息環境と調和する行動をとらず、新参者である外来種の様に振舞う。自らが作り変えてしまった生態系の中で個体数の増減を繰り返し、新たな安定状態を得るまで長い時間を要する外来種に見られる定着過程の個体群変動パターンを取る事になる（揚妻 2010）。

● おわりに

首都圏におけるカワウの生態は、安定期の1950年代に比べ激変した。秩父山系のニホンジカが森林生態系の破壊者である様に、カワウは埼玉の河川生態系破壊者の様に行動している。カワウが個体群崩壊に至らないのは、域外へ流出する選択肢があるからにすぎない。

<謝辞>

本稿をまとめるに当り資料収集にご協力頂いた埼玉県立浦和図書館地域・行政資料担当司書 佐竹かおる、バードリサーチ 加藤ななえ、日本野鳥の会自然保護室 古南幸弘の各位に深謝申し上げます。

<文献> (発表順)

- 高田武夫 1950 秩父の鳥類 秩父自然科学博物館研究報告 2 秩父自然博物館 長瀨
 清水古寿 1953 秩父の鳥相について 秩父自然科学博物館研究報告 4 秩父自然科学博物館 長瀨
 日本野鳥の会 2003 内水面生態系管理手法 開発事業報告書（カワウ等食害防止対策） 水産庁 東京
 須川恒ほか 2004 特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル（カワウ編） 日本野鳥の会 環境省 東京
 小荷田行男 2004 カワウ—埼玉県の現状— しらこぼと 240 日本野鳥の会埼玉支部 埼玉
 小荷田行男 2007 荒沢沼カワウ・コロニーの今！ しらこぼと 282 日本野鳥の会埼玉支部 埼玉
 関東カワウ広域協議会 2010 平成21年度関東カワウ広域協議会総会資料 関東カワウ広域協議会（環境省） 東京
 揚妻直樹 2010 シカの生態系破壊から見た日本の動物と森と人 日本列島の野生生物と人 世界思想社 京都
 埼玉県自然環境課 2010 平成21年度カワウ生息状況調査の概要 埼玉県 埼玉

表 首都圏におけるカワウの生態変化

年代	個体数	生息環境条件	餌場	コロニー	種としての対応
～1950年代	安定期		河川下流、沿岸域	沿岸域	
1960年代～1970年代	激減期	河川下流の汚染	河川下流、沿岸域	沿岸域	
1980年代	低個体数期	河川下流の浄化	河川下流、沿岸域	沿岸域	上野不忍池個体群のみ
1990年代	急増期		新たに河川中流も	沿岸域 内陸湖沼	
2000年代	飽和期	河川餌資源の急減	新たに河川上流も 新たに河川細流も	沿岸域 内陸湖沼	関東地方北部 や東北南部へ

注1：（須川ほか 2004）、（関東カワウ広域協議会 2010）などをベースに作成。

注2：首都圏とは大規模コロニーがある東京都、埼玉県、千葉県北部などをさす。

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部記録委員会

●シロハラトウゾクカモメ

分類 チドリ目トウゾクカモメ科トウゾクカモメ属

英名 Long-tailed Skua

学名 *Stercorarius longicaudus*

会員の高橋達也さんから、「シロハラトウゾクカモメ1羽、本年4月13日戸田市彩湖の自然保全ゾーン上空を飛翔後着水。中央尾羽が長いと翼の裏に白斑が無いのを



確認した」という情報をいただきました。同封されていた写真は、

持っていたデジカメを望遠鏡にあてて撮影したというもので残念ながら不鮮明でしたが、拡大して検討したところ「①頭が黒く、後頸から前頸、胸から腹が明瞭に白い。②くちばしが黒い。③中央尾羽が他の尾羽の2倍程度長く見える」などから、シロハラトウゾクカモメとして記録することにしました。

本種については、これまでに1988年4月29日さいたま市(旧浦和市)大久保農耕地(本誌同年8月号)、1999年7月12日行田市利根川(本誌同年11月号)2件の確認記録と、1994年5月4日本庄市阪東大橋(本誌同年9月号)1件の観察記録があります。

●クロトウゾクカモメ

分類 チドリ目トウゾクカモメ科トウゾクカモメ属

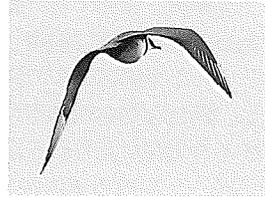
英名 Arctic Skua

学名 *Stercorarius parasiticus*



本年4月23

日、本庄市坂東大橋付近の利根川で、会員の森田文三郎さんにより



観察・撮影されました。「クロトウゾクカモメらしいのですが・・・?」と森田さんが送って下さった写真を拝見し、「①初列風切の羽軸が2~3本だけではなく7~8本白く見える。②体上面が色濃く見える。③肩から胸に向けて黒褐色斑がある。④飛んだときに中央より前に重心があるようには見えない。⑤嘴がトウゾクカモメより細め」などから、クロトウゾクカモメとして記録することにしました。

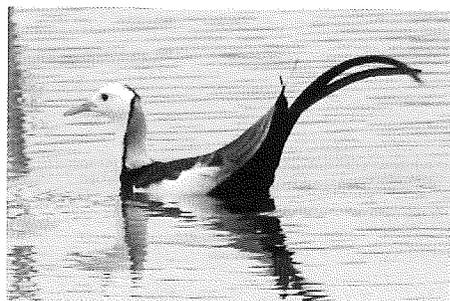
県内では、1987年6月9日に川口市西新井宿で本種1羽を保護し、後日放鳥したという記録があります。

●レンカク

分類 チドリ目レンカク科レンカク属

英名 Pheasant-tailed Jacana

学名 *Hydrophasianus chirurgus*



本年7月3日さいたま市緑区大門で多数の人たちによって観察・撮影されました。この写真は会員の山田東二さんが撮影したものです。県内ではこれまで2003年7月20日にさいたま市見沼区で写真撮影されたのが唯一の確認記録(本誌同年9月号)で、今回は2件目です。



野鳥情報

- 蓮田市笹山** ◇4月28日、水田の畔でキアシシギ1羽。5月10日、水田でムナグロ48羽、キアシシギ1羽（鈴木紀雄）。
- 蓮田市川島** ◇4月30日、まだ水の入っていない田んぼを中心にムナグロ135羽、キアシシギ1羽（鈴木紀雄）。
- 蓮田市黒浜** ◇4月30日、森の中から「キーキーキキキ」と猛禽の声。分け入って見たら杉の枝に後ろ姿の大きな鳥。首がぐるっと回って、こちらを睨むのはフクロウだった。「フクロウの声じゃなかった」と思った瞬間、飛び出したのはフクロウに突っかかる少々小型の鳥。確認したらツミの♀。フクロウとツミのバトルの現場でした。5月10日、東埼玉病院東縁で美しい声でさえざるキビタキ♂1羽。サンショウクイの声も聞こえたが姿見えず。エナガの群れが林内を動き回っていた（鈴木紀雄）。
- 蓮田市蓮田** ◇5月29日、シジュウカラ若鳥6～7羽。朝早くから庭にやって来た（本多己秀）。
- 蓮田市根ヶ谷戸公園** ◇6月6日午前9時、ホトトギス、2声鳴いて飛んだ（本多己秀）。
- さいたま市岩槻区掛** ◇5月10日、水田でムナグロ48羽（鈴木紀雄）。
- さいたま市岩槻区野孫** ◇5月20日、ケリ成鳥4羽がしきりに鳴いて急降下している草むらの中に、オオタカ♂成鳥がいた。5月31日、ケリ7羽、内数羽が若鳥だが、パッと見、成鳥と区別がつかない（鈴木紀雄）。
- さいたま市緑区大門** ◇5月14日、遊水池でコアジサシ28羽、コチドリ3羽、イソシギ1羽、セイタカシギ1羽。中州でコアジサシが営巣するかもしれないが、大雨が降ったら水没しそうな場所。5月17日、遊水池でコアジサシ33羽、コチドリ、イソシギなど。5月20日、同所でコアジサシ36羽。5月21日、同所でコアジサシ36羽、コチドリ、イソシギ、バンなど。5月31日、同所でコアジサシ35羽、アカエリヒレアシシギ♂1羽（鈴木紀雄）。

- さいたま市緑区三室** ◇5月25日午前10時30分頃ある家を訪問中、外で猛禽の声。用件を終えて外に出て空を見上げると、オオタカが2羽、鳴きながら飛んでいた。その内、1羽がもう1羽から離れ、一度高く昇ったと思ったら急降下、そして急上昇（ディスプレイフライトのよう）。その後、見沼田んぼの方に飛んで行った。もう1羽の姿はいつの間にか消えていた（藤原寛治）。
- 伊奈町小室** ◇5月11日、水田でムナグロ28羽（鈴木紀雄）。
- 秩父市大滝町・高平** ◇5月14日午前10時30分～午後2時、高平、滝川林道周辺でホオジロ、オオルリ、アカゲラ♂、コゲラ、カケス、メボソムシクイ、ホトトギス。東大附属演習樹木園で公開見学参加者を案内中に、同行者3名と共に、飛翔したり、樹冠にとまっている上記の鳥を見た（船木数樹）。
- 秩父市大滝町・栃本入川** ◇5月18日午前10時～12時、矢竹沢左岸周辺でツツドリ♂の特徴ある鳴声を聞いた。カケス2羽、入川溪畔林を飛翔する背面を見た。青と白の縞模様が秀麗であった。アオゲラ、コゲラ、オオルリ。鳥影の濃さを鳴声の頻度から確認できた（船木数樹）。
- 川口市行衛** ◇5月27日、遠くからカッコウの声。他に飛んで来て木にとまったカッコウの仲間を見たが、後ろ姿で種類は識別できなかった（鈴木紀雄）。

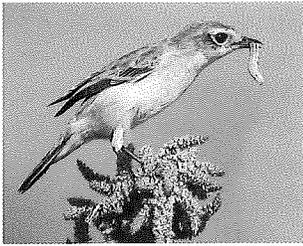
表紙の写真

チドリ目カモメ科アジサシ属キョクアジサシ

7月26日、神奈川県大磯町の海岸でキョクアジサシを見ました。すぐ近くを海水浴客が、泳いだり磯遊びをしていたりしているのには驚きました。**小林ますみ(所沢市)**
(編集部註) キョクアジサシは北極圏で繁殖し南極大陸付近で越冬します。日本には稀な旅鳥として飛来、茨城・千葉・神奈川県で記録されています。埼玉県で記録はありません。日本鳥学会『日本鳥類目録』改訂第6版では「検討中の種」に入っています。



行事案内



ノビタキ(寺添捨男)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費: 就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 **持ち物**: 筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。 **解散時刻**: 特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止。小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

リーダー研修会(要予約)

日時: **9月5日(日)** 午前9時30分～午後4時30分(受付開始は午前9時より)

会場: 北本市・埼玉県自然学習センター

交通: JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で、「自然観察公園前」下車。

申込み: 初めてリーダー研修会に参加される方は往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、橋口長和(〒

300-0001) へ。8月29日まで。役員・リーダーの方も電話またはメールで必ず事前に参加申し込みをお願いします。

参加資格: 探鳥会や、支部活動にリーダーとして協力できる支部会員。

ご案内: 当支部は、探鳥会の運営をはじめ全ての支部活動を会員のボランティアで行っています。あなたの新鮮な力を支部活動に



昨年のリーダー研修会

生かしてください。今日までの足跡、活動の現況、リーダーの役割などを学び、皆で意見交換などをします。

その他: 昼食は普及部の方で用意します。各自筆記用具をご持参ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日: **9月12日(日)**

集合: 午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通: 秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当: 大澤、森本、中里、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼、岡田

見どころ: 猛暑の夏だった大麻生も季節がめぐり、樹木のとっぺんではモズが高鳴き、足下にはヒガンバナが咲いています。ショウドウツバメも稲穂の上を群れ飛んでいることでしょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき: **9月18日(土)**

会場: 支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日: **9月19日(日)**

集合: 午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援: さいたま市立浦和博物館

担当: 楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、

赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ：見沼田んぼは、旧浦和市街地から来るとかなり涼しく感じます。田んぼ、代用水、斜面林が作る風景が温暖化を抑えているのでしょうか。鳥たちもそろそろ戻ってきます。私たちにできることは何かと考えながら、三室へどうぞ。

長野県・白樺峠と乗鞍探鳥会 (要予約)

期日：9月19日(日)～20日(月・祝)

前月号でお知らせしました。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月20日(月・祝)

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場付近。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、1番バス乗り場から8:57発エローラ行きで「松伏高校前」下車。

担当：田邊、橋口、植平、大塚、吉岡(明)、榎本(建)、野村(弘)、野村(修)、森下、進士
見どころ：小さな公園の林間の鳥、広い農耕地の鳥を探して、ヒガンバナの道を歩きます。昨年はノビタキ、チョウゲンボウに歓声が上がりました。6種+αのサギ類も、じっくり観察しましょう。

その他：松伏中央公民館との共催です。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月20日(月・祝)

集合：午前9時30分 大久保浄水場北西角近くの土手の上、運動公園入口。

担当：石井(智)

研究部担当の調査です。解散は昼頃。調査のため参加費は不要。雨天でも実施。シギ・チドリが大変少ないこともあります。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月23日(木・祝)

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:10→坂戸で越生線乗り換え8:39発。または寄居7:38→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR川越線

大宮7:35→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、青山、久保田、志村、杉原、高草木、高橋(優)、林、藤掛、藤澤、増尾、持丸山田(義)

見どころ：渡りの季節です。残っている夏鳥、渡り途中の旅鳥、早々と渡ってきている冬鳥なども探しましょう。同時に秋の草花や昆虫なども楽しめます。

タカの渡り調査

半日空を眺めているだけで貴重なデータが得られます。タカ類についての知識も増えます。初めての方も気軽にどうぞ。雨天(小雨でも)中止。調査のため参加費は不要。いずれも調査時間内のご都合のよいときに、調査地点にお出かけ下さい。

◆ 物見山駐車場(東松山市・鳩山町)

日時：9月23日(木・祝) 午前8時30分から正午すぎまで。

担当：榎本

◆ 中間平(ちゅうげんだいら)緑地公園展望所(寄居町)

日時：9月23日(木・祝) 午前8時30分から午後1時まで。

交通：従来タカの渡り調査を実施していた小川げんきプラザ近辺が開発により環境が大きく変化。観察地を移動しました。初めての場所です。地図やインターネットなどで十分に確認されてお出かけください。県道294号線を鉢形城公園から東秩父方面に進むと、進行方向右側に中間平緑地公園の案内表示があります。右の道を進み、山道を登ります。寄居駅から徒歩約2時間。公共交通の便はありません。展望所近くに駐車できます。

担当：後藤

◆ 天覧山展望台(飯能市)

日時：9月26日(日) 午前8時から正午まで。近くに水洗トイレあります。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分。

担当：佐久間

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月26日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:38
発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山
本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口、
星、水谷、間正

見どころ：季節の移り変わりを、身近な鳥や、
渡りの途中に立ち寄っていく鳥たちの観察
を通して、感じましょう。草花や昆虫など
も、いっしょに楽しみましょう。

長野県・戸隠高原探鳥会 (要予約)

期日：10月23日(土)～24日(日)

集合：23日午前9時00分、長野駅コンコー
ス新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」(東京6:52
→大宮7:18→熊谷7:32→高崎7:50→長
野8:43着)、または「あさま505号」(東京
7:28→大宮7:52→長野8:53着)。

費用：10,500円の予定(1泊3食、現地バス
代、保険料など)。過不足の場合は当日精算。
集合地までの交通費は各自負担。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性
別、電話番号、喫煙の有無を明記して、
菱沼一充(〒)
まで。『しらこぼと』がお手元に届く日によ
る不公平をなくすため、9月1日消印以降
から有効受付とします。

担当：菱沼、藤掛、中里

見どころ：紅葉真っ盛り、秋の味覚も満載の
戸隠探鳥会です。埼玉では見る機会の少な
いムギマキとマミチャジナイが見られる



戸隠森林植物園

可能性が大了。

ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の
用意はできません。

宮城県・伊豆沼探鳥会 (要予約)

期日：10月30日(土)～31日(日)

集合：30日午前9時30分、JR大宮駅改札口
の中、新幹線「北のりかえ口」前。

(集合時間は変更の可能性があります。そ
の場合は申込者にご連絡します。)

交通：東北新幹線を利用。

費用：40,000円(1泊3食付き宿泊料、大宮
～現地駅間の往復乗車料金・指定席料金、
現地バス代、保険料など)。過不足の場合当
日精算。集合地(大宮駅)までの交通費は各
各自負担。

定員：25名(先着順、当支部会員優先、最
少催行人数20名)

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性
別、電話番号、喫煙の有無を明記して、
榎本秀和(〒)
まで。消印日による制限は設けません。こ
の探鳥会は今回で当面の最後とします。こ
の機会をお見逃しなく。

担当：榎本(秀)、長野、浅見

見どころ：この秋もやっぱり伊豆沼、蕪栗沼。
夕暮れ時の幻想的なねぐら入りや、暁のね
ぐら立ちは何度見ても感激もの。万羽のマ
ガンにご期待ください。昨年は一生涯モノの
珍鳥ハシグロクロハラアジサシが出ました。
今年も担当リーダーは燃えています。

ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の
用意はできません。



伊豆沼のマガンの群れ



行事報告

3月7日(日) 寄居町 玉淀河原

雨のため中止。(小池一男)

3月7日(日) 蓮田市 黒浜沼

雨のため中止。(玉井正晴)

3月27日(土) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 59名 天気: 晴

トビ ハイタカ ノスリ クマタカ キジバト
コゲラ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサ
ザイ ジョウビタキ キクイタダキ エナガ コ
ガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュ
ウカラ キバシリ ホオジロ アトリ カワラヒ
ワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハ
シブトガラス (30種) 大谷川でカワガラスとミソ
サザイをなんとか見つけて山道に進んだ。針葉樹
の葉の中で動くキクイタダキが見つかり、良く見
るとコガラ、ヒガラなどとの混群だった。その後
もいくつかの混群が現われてゴジュウカラ、ヤマ
ガラなども楽しめた。期待されたクマタカ、キバ
シリはごく一部の人しか見られなかったが、帰途
の開山堂で真っ黒頭、夏羽のアトリの群れに感激
して終えることができた。(玉井正晴)

3月28日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 22名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボ
ウ バン オオバン キジバト カワセミ ヒバ
リ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ アカハラ
シロハラ ツグミ ホオジロ アオジ オオジュ
リン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハ
シボソガラス ハシブトガラス (29種) 桜が三分
咲きなのに曇天で風が強く、寒い探鳥会になっ
てしまった。参加者は少なかったが、出現鳥の方
は行事案内どおりの冬鳥と夏鳥が顔を揃えてくれ
たし、空の猛禽もオオタカとチョウゲンボウが見
られた上に、公園のブッシュにはアカハラとシロハ

ラが仲良く潜んでいたり、好感度ナンバーワンの
カワセミをじっくり観察できるなど、29種は寒さ
を忘れさせるに十分な成果だった。(田邊八州雄)

4月3日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 36名 天気: 曇後晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイ
サギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨ
シガモ ヒドリガモ シマアジ スズガモ ミサ
ゴ トビ オオタカ ノスリ ハイロチュウヒ
チュウヒ チョウゲンボウ コジュケイ キジ
バン オオバン コチドリ シロチドリ ハマシ
ギ タシギ セグロカモメ キジバト アカゲラ
ヒバリ ツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨ
ドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス
シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ
オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (51種) (番外: ドバト) アシ焼きの済んだ渡
良瀬での探鳥会で、湖水も少なく、天気も曇天に
寒い風と、始まる前は心配した。しかし、焼け跡
の黒い大地が例年の3分の1くらいしかなく、冬
鳥がまだまだ残っている上に、ツバメをはじめコ
チドリなど夏鳥も出てくれた。特に、カモの中に
シマアジが混じっていたのは、初見の人が多く、
天気の回復もあって後半ほど盛り上がり、終了
時間が遅れてしまった。(田邊八州雄)

4月4日(日) 北本市 石戸宿

参加: 50名 天気: 曇

カルガモ コガモ トビ オオタカ ハイタカ
コジュケイ クイナ バン キジバト コゲラ
ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨド
リ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ
ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ カワ
ラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス
ハシブトガラス (28種) (番外: ガビチョウ) 4月
の石戸宿は例年通り今年もお花見探鳥会。エドヒ
ガンザクラは盛りを過ぎた白い花だった。桜堤と
蒲桜は、二分咲き。しかし、蒲桜の周りのソメイ
ヨシノは五分から八分。人出が多いためか、ソメ
イヨシノにはメジロもヒヨドリも居なかったが、
エドヒガンザクラの前でルリビタキを全員で見
る事ができた。また、上空にはオオタカ、ハイタカ
も見られた。(吉原俊雄)

4月4日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：48名 天気：曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ
コガモ ハシビロガモ オオタカ チョウゲンボウ
ウ キジ バン キジバト カワセミ コゲラ
ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ
ジョウビタキ シロハラ ツグミ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジ
ユリン アトリ カワラヒワ シメ スズメ ム
クドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35
種) もうすぐ日本を去っていく冬鳥たちも姿を見
せてくれた。パツとしない天気の中、皆さんお疲
れ様。(伊藤芳晴)

4月10日(土) さいたま市 田島ヶ原自然観察会

参加：16名 天気：晴

草：サクラソウ(花) ノウルシ(花) カントウタ
ンポポ(花) オオイヌノフグリ(外)(花) ムラサ
キケマン(花) シロバナタンポポ(花) スイバ
(花) ヒキノカサ(花) ジロボウエンゴサク(花)
ホトケノザ(花) アメリカスミレサイシン
(外)(花) ヨシ ノカラムツ ハナウド センニ
ンソウ コバギボウシ ヘビイチゴ トダスゲ
シダ：ヒロハハナヤスリ 樹：クヌギ(花) ソ
メイヨシノ(植)(花) ユキヤナギ(植)(花) レン
ギョウ(植)(花) カラタチ(植)(花) 鳥：カワ
ウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ ノ
スリ キジ ヒバリ ヒヨドリ ツグミ ウグイ
ス シジュウカラ ホオジロ アオジ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (17種) 田島ヶ
原サクラソウ自生地は、ノウルシの黄の絨毯の中
にピンクのサクラソウ群落が島状に点在している。
一方、彩湖北岸に設けられたサクラソウ実験地は、
ヨシの芽の間に水溜りが点在し、水溜りの間の微
高地にサクラソウ群落がある。乾燥化の著しいサ
クラソウ自生地と本来の生態を彷彿とさせるサク
ラソウ実験地を廻り、田島ヶ原の環境変化を江戸
初期の荒川流路変更、大正時代の河道直線化、戦
争中の耕作地化、彩湖建設と荒川の河川改修の歴
史の中で考えてみた。(小荷田行男)

4月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加：41名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハ
クチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガ

モ トビ オオタカ チョウゲンボウ コジュケ
イ キジ イカルチドリ コチドリ イソシギ
キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ
ヒレンジャク ツグミ ウグイス シジュウカラ
メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハ
シブトガラス (40種) (番外：ガビチョウ) 土手
の上は桜が満開。その中を秩父鉄道のSL列車が通
っていく。スタートすると早速キジが出迎え。歌
舞伎役者の形相ぶりを見せてくれた。土手の上を
来たばかりのツバメが忙しそうに行き交っている。
アオジやシメもまだかなりの数が残っていた。森
の中ではオオタカが騒がしく鳴いている。「レンジ
ャクだ」の声で列が乱れる。その場から前に進ま
ない。相変わらずの人気者だ。大麻生ではここ数
年毎年来てくれている。明戸堰の上流にはまだコ
ハクチョウが残っていた。(中里裕一)

4月11日(日) 所沢市 狭山湖

参加：26名 天気：曇後晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ア
オサギ マガモ コガモ ヒドリガモ キンクロハ
ジロ トビ コジュケイ コチドリ キジバト
アオゲラ コゲラ ツバメ ハクセキレイ タヒ
バリ ヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス
エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ オナ
ガ ハシブトガラス (32種) (番外：ガビチョウ、
ドバト) 寒暖の差が激し過ぎる今年の春は、鳥た
ちの季節移動にも微妙に影響しているのだろうか？
この時期にしては夏鳥の姿は少なく、カモ
類がまだそこそこ残っていた。カンムリカイツ
ブリは既に鮮やかな夏羽に変身、渡りのしんがりに
備えていた。「鳥よりも 名残りの桜 目について
狭山丘陵 卯月の鳥見」(石光 章)

4月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：10名

池田泰右、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大
坂幸男、柴野耕一郎、志村佐治、武井暁嗣、藤掛
保司、増尾隆

4月18日(日) さいたま市 三室地区

参加：78名 天気：晴

カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ
ハシビロガモ オオタカ サシバ チョウゲンボウ
ウ キジ クイナ バン コチドリ イソシギ
キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ
ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウ
ウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン
カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ
ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 前日の雪から一変した青空の下、参加者も78名と賑やかだった。春爛漫、子育ての季節にカワセミ、キジのペアが出現。サシバ、オオタカが空に、チョウゲンボウはメタセコイアの木のでっぺんに長らく滞在し、土手に咲くカラシナの黄色の花に酔った探鳥会になった。(楠見邦博)

4月24日(土) 東松山市 物見山

参加：39名 天気：晴

カワウ ハイタカ コジュケイ キジ キジバト
コゲラ ツバメ ビンズイ ヒヨドリ モズ シロハラ
ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ
メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブト
ガラス (24種) (番外：ガビチョウ) 新葉が開き出したコナラやクヌギの林床にはチゴユリやクサイチゴ、ニオイタチツボスミレなどの草花。明るく爽やかな里山の道を夏鳥を探して歩いた。しかし、夏鳥の声が聞こえない。下見時に確認したセンダイムシクイも移動したようだ。市民の森を下りた谷津田でキジみが出て、畑を抜けて橋を渡って行った。里山では人もキジも同じ道を歩くらしい。その傍らの棒杭の上ではモズが尾羽を回していた。ウグイスの声を聞きながらツツジの咲き出した物見山に上がり、鳥合わせ。(中村豊己)

4月24日(土) 春日部市 内牧公園

参加：34名 天気：晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ オオタカ
キジ バン タシギ キジバト コゲラ ヒバリ
ツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ
シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ
ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種)
キビタキ、オオルリなどの夏鳥は出なかったが、代りにキジみの美羽、ダイサギとコサギの夏羽をじっくり見られた。また、芽吹き始めた雑木

林の柔らかな新緑も美しかった。(石川敏男)

4月25日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加：67名 天気：快晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ
カルガモ チョウゲンボウ キジ イソシギ
キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ
ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス オオヨシキリ
セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ
アオジ カワラヒワ シメ スズメ コムクドリ
ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブト
ガラス (32種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 好天に恵まれて出発。まず鴨川排水機場へ。カモ3種、サギ2種、カワウ、イソシギ、上空に出たタカは種名確認にいたらず。中土手橋を渡り、土手を越えて水田へ。水路脇の道を行く。オオヨシキリの声、枯れススキの中に1羽。その後すぐにコムクドリ2羽。ヒバリの声を聞きながら子供の森へ。森の中ではシジュウカラの声ばかり。上天気みんな北へ飛び立ったようだった。(倉林宗太郎)

4月29日(木、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア：23名

相原修一、相原友江、浅見徹、石井智、石塚奏、石塚敬二郎、今田万美子、内田克二、海老原教子、海老原美夫、大勝学、川崎信子、佐久間博文、柴野耕一郎、鈴木敬、中川敏子、新部泰治、藤掛保司、藤掛宮子、船木数樹、持丸順彰、吉原早苗、吉原俊雄

5月2日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加：37名 天気：晴

カワウ ダイサギ チュウサギ アオサギ カルガモ
コガモ オオタカ ツミ コジュケイ キジ
コチドリ コアジサシ キジバト カワセミ
コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ
モズ ツグミ オオヨシキリ セッカ シジュウ
カラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ
ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブト
ガラス (32種) 公園内はバーベキューの人達でいっぱい。それでも木々には巣立ち間近のカラスの雛や巣立ったばかりのスズメ達がいた。自然観察園では鳥が少なかったが、公園の外に出るとキジやセッカやオオヨシキリ。枝に止まるオオタカもじっくり観察できた。(青木正俊)

連絡帳

●鳥見ランキング表彰状

総会に出席できなかった 2009 年県内鳥見ランキング 2 部門 1 位の船木数樹会員=写真中央=に、7 月 11 日(日)大麻生定例探鳥会で、藤掛保司支部長=写真左=から表彰状と副賞が手渡されました。



●会員の普及活動

平成 22 年 7 月 28 日(水) 午前 9 時~11 時 本庄市立北泉公民館主催「サマーチャレンジ野鳥観察教室」が開催され、会議室で町田好一郎会員が野鳥観察の基本をレクチャーした後ビデオでバードウォッチング。さらに双眼鏡や望遠鏡で庭に来たコサギやキジバトを観察しながら説明をしました。参加者は母親 6 名と小学 3~5 年生 23 名でした。

●おかげ様で地デジ対策

総会での 22 年度予算の成立を受けて、支部事務局にデジタルテレビを入れることができました。会員の皆様の大切な会費をお預かりしているわけですから贅沢は言わず、税込み 5 万円弱の 32 型です。20 数年前のブラウン管テレビに代わって、袋づめの会の後の作品発表などに、性能発揮が期待されます。

●会員数は

8 月 1 日現在 2,067 人です。

活動と予定

6 月 29 日(火) 財団本部、関東ブロック各支部・連携団体などに、11 月 1 日に名称変更することを通知。

7 月 6 日(火) 郵便事業会社に、第三種郵便定期調査報告書と添付書類、11 月 1 日に発行所名称変更することの届出書などを提出。

7 月 10 日(土) 8 月号校正(海老原美夫、大坂幸男・菱沼一充・藤掛保司・長嶋宏之・山田義郎)。

7 月 18 日(日) 役員会(司会：浅見徹、各部の報告・名称変更による封筒印刷の枚数・新リーダー候補・その他)。

7 月 20 日(火)「支部報だけの会員」に向け 8 月号を発送(倉林宗太郎)。

●9月の予定

9 月 4 日(土) 編集部・普及部・研究部会。

9 月 11 日(土) 9 月号校正(午後 4 時から)。

9 月 18 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

9 月 19 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

毎年観察しているアオバスクの巣立ち、今年は 8 月 4 日だった。例年より 2 週間ほど遅い。飛来も遅かった。どこそこのツミはまだ抱卵中と聞いた。皆さんの近くではいかがですか。(部)

県内生息魚類減少の原因として、水質など河川環境の悪化、外来魚の侵入、人が捕獲する量……。カワウは好きな鳥とは言えないけれど、いろいろと考えてしまう。(海)

セミの羽化が興味深い。岩槻文化公園に、夜、カメラを持って、週 3 回も通ってしまった。(藤)

しらこぼと 2010 年 9 月号(第 317 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。印刷 関東図書株式会社